

理科

昨年度の授業改善プランの検証

生徒各個人用タブレットを利用して、生活の中で見られる科学的事象を取り上げ、興味関心を高めることで主体的に取り組む姿勢を身に付けてきた。生徒の理解度を把握しながら、毎回の授業改善に努めることができた。実験器具や実験環境を整えることで、積極的に取り組める生徒が増えた。小テストや補習などを取り入れて、知識の定着を促すことができたが、まだ十分ではない。実験の結果から法則や規則を導き出せる思考力を身に付けさせることが課題である。

今年度の学力調査について

分析	＜知識・技能＞ 全学年校内平均値が目標値を下回っている。 ＜思考・判断・表現＞ 1・2年生は校内平均値が目標値を下回っている。1年生は同程度である。 ＜主体的に取り組む態度＞ 実験に対する取り組み姿勢は良好な生徒が多い。日常の生活、既知の事象に結び付けて考えることが難しい傾向にある。
課題	＜知識・技能＞ 観察・実験を積極的に行うことはできており、基礎的な操作は定着している。また、基礎知識が不十分なところがあるので、スモールステップで知識の確認、振り返りを行う必要がある。 ＜思考・判断・表現＞ 科学的な事象から規則性を推察・発見する力が不足している。またそれを表現するための言語力にも課題がある。結果を引用した考察、最終的な結論を導き出す力を身に付けさせる必要がある。 ＜主体的に取り組む態度＞ 身近な自然現象と結びつけることができていない。暗記科目という意識が強く、好き嫌いの差が激しい。
授業改善	＜知識・技能＞ 実験の目的をより強く意識させながら、観察・実験活動に臨ませる必要がある。実験器具や実験環境を整え、一人一人の生徒が積極的に取り組めるようにする。また、基礎知識定着のため小テスト・単元テスト等を適宜行い、事前課題も含めて基礎学力の定着を図る。 ＜思考・判断・表現＞ 実験の予想を立てる時間を確保して、自らの考えを言葉で表現させていく。個人や集団で考える時間を確保して発表する機会を増やす。結果を比較させながら、考察を導き出す力を育む授業を展開する。 ＜主体的に取り組む態度＞ 個人用タブレットを、上手に利用することで科学を身近に感じさせていく。専門書、インターネットなどを通じて、科学技術についての調べ学習を行い、関心を深めさせる授業を展開する。